

OKAME STYLE

丘女会報
「OKAME STYLE」
第4号
令和元年6月発行
編集 丘女会広報部
TEL : 092-561-0662



好きな事に夢を持ち続ける 前向きなことしか考えない、 とにかく何か実行してみよう

■夢に向かって走り出した高校時代

筑紫丘高校への進学は、実家から近いこと、父が本校の25回生ということもあって決めました。中学の時は音楽は好きだったけれど、将来の夢は漠然としていてわからなかったの、進学校に行ったら選択肢がたくさんあるかな？と思いました。音楽の方面に進むと決め、放課後は音大受験の為に勉強をしていました。とにかく忙しい3年間でした。でも、友達がみな打ち込む目標を持っていて、いい距離感で仲良くできていました。あつという間の3年間でしたね。

■アメリカのバークリー音楽大学に進学を決めたのは？

日本の音大だとクラシックを主に勉強することになるのですが、私はもっといろんな音楽を勉強したいと思って、いろんなジャンルのトップの先生がおられ、ジャズで有名な小曾根真さん、上原ひろみさんの母校ということで選びました。当時の先生から「カタカナの大学」と言われたけれど、高校の授業はとても役に立ちました。外国の大学に行こうと思っていたので特に英語の授業はがんばりました。3年生の英語の井上先生が厳しい先生だったのも何かの縁だったと思います。

ビックバンドの曲を書いたり、ラテンジャズ、R&Bの勉強、声楽科の伴奏のバイトでゴスペルに触れるなど自分も楽しんだ充実した大学生活



日本人の留学生は少なかったですが、韓国人は多かったです。またヨーロッパ人、南米系の方も多かったですよ。1学期に取れる単位をマックスで取って、夏は別の学校で一般教養を取り組み合わせて少し早く卒業しました。時間は大切だと常に思っていました。卒業してからは、就労ビザがあるので、お金を貯める為にバークリーの音楽科の授業のピアノ伴奏のバイトをし、ニューヨークに引っ越して演奏しながらフリーランスの活動をはじめました。本業は作曲ですが、作曲の仕事は経歴がないと雇ってもらえません。インターンとして無償で働き、気に入ってもらえたら雇用という形で演奏し、雑用をしながら仕事をしていました。

自分のものを作るために いろんな経験、下準備をする中で、 不利だと感じた外国での雇用

日本だったら男か女ですが、外国は選択肢に人種が入ってくるわけです。いろんなチャンスがあるときに白人男性が優先されたりするのですが、選ばれる基準が決定的に見えるものではなく、気が付いたらアジア人は不利だったりするわけです。それでも認められないと作品は世の中に出て行かないので、私は経験の積み重ねと努力しかないと思い、できるだけ男性的な働き方を心がけていました。2013年に国際結婚。今は1歳半の娘がいます。アメリカ人の夫はニューヨークを拠点にフリーランスのピアニストとして世界各国を飛び回っていますが、いずれ夫も日本を拠点にと考え、先に私が日本に帰ってきました。今まではニューヨークで子育てして、私が仕事のときは夫の両親が見てくれていたが、今は母に協力してもらっています。今回初めて日本で就職活動をしてゲーム会社に履歴書を送ったところ、そこそ反応が良く、日本人同士だからなのか？と感じました。娘の保育所も見つけたり、サウンドクリエイターとして新

ジャズ作曲家
サウンドクリエイター

55回生 樋口絢子さん



< Profile >

高55回生
バークリー音楽大学ジャズ作曲専攻卒業
(ボストン)

在学中に Carla Bley Award を受賞
2006年～

BMI Jazz Composer Workshop,
BMI Compoing for the Screen,ソニック
ブランディング会社のAudiobrain, (2012
年ロンドンオリンピック、2014年ソチオ
リンピック、2016年リオオリンピックの
音楽ライブラリーの仕事に携わる)
カジノゲーム会社のHigh 5 Games(サウ
ンドデザインを手がけたスロットゲーム
"Triple Raven"がEGRのベストニュー
ゲーム賞を受賞)

その後フリーランスで作曲活動
2019年4月～

株式会社BOOOM サウンドクリエイター

たなスタートでドキドキです。いずれは映画のスコアをやってみたいと思っています。少しずつこつこつといい作品を作り続けたいと思っています。

■高校生にメッセージ

毎日元気に前向きに頑張っていけば、少しずつ前進しています。自分も忙しい毎日だったけれど、後ろ向きには考えず、今日上手く行かなくても頑張れたところを探して、いいところに着目していました。長い目でみたら前進しています。何か行動することが前進すること、そう思ってやってきました。上手いかなかったことを考えるより、できたときの喜びを考えたら良いと思います。

どんな小さな出会いも無駄にはならない。 必ず人生のどこかで 大きな影響を与える時がくる

一般社団法人 九州環境管理協会
技術部 品質管理課長

44 回生 村橋 (天日) 美薫 さん

■お仕事を教えてください。

環境調査、分析部署で、水、空気、音、振動、土壌、廃棄物、汚泥などの環境に関する調査を行う仕事です。最近は情報過多で、どこかで何かあるとそれが自分の生活環境の周りで起きていないか不安になる方も多くなってお問い合わせも増えています。一昨年末まで分析の現場で、大学も分析系でしたので、分析機器を使って金属等を分析したり職員のサポートをしていました。昨年の4月から品質管理部門に異動しました。

仕事のアウトプットは数値です。紙一枚ですが、報告書自体が商品となります。同じような会社は沢山あり、なかなか紙一枚で差別化はしにくいところです。ですから、お客様の相談に沿って、どれだけ技術的に対応できるかが重要に



< Profile >

高 44 回生
九州大学大学院理学研究科卒業
2001 年 九州大学大学院理学研究科
凝縮系科学専攻博士後期課程修了
2001 年 一般社団法人九州環境管理協会
分析科学部 入社
調査分析部 環境分析課長
2018 年 技術部 品質管理課長

なります。なぜ水質が悪くなったのか、この水の起源はどこなのか、基準を超えてしまったがどうしたらいいのか、などの相談にのっていくサービス業ですね。

文系が得意だった高校時代。 化学の先生との出会いが 進路をかえた

高校1年のときの担任の先生が化学の先生で、文化祭で地味な甘茶ヅル茶を作って配るという催しものをしました。基礎的な大切なことを教えてもらい私の化学好きはそこが原点スタートだったんだと思います。理系文系の選択において、文系科目の方が得意でしたが、文系から理系の仕事には就けないと思って九州大学の理学部化学科へ入学しました。

博士課程まで9年間学生生活を送ることになるのですが、大学では、分析と計算の基礎(数値を出すこと)を叩き込まれました。化学の範囲はとても広いのですが、私にとって分析を専攻したことは自分に合っていたと思います。すべてのものは元素から成り、すべての事象は化学であって、化学から始まる。その根底の分析はやはり面白いし奥が深く、就職は今まで使ったことがない分析機器がたくさんあっていろんなことができるという理由で今の会社を選びました。

それでもひたすら分析だけでは 物足りなくなった頃、お客さんと 分析方法を開発するなどコンサル 的な、検討業務に携わるようになる

ひたすら分析することに加えて、人の何かに関わってくることの面白さが見えてきたと思います。人と人のつながりを楽しくすることが大切。結婚は入社2年目でした。仕事が面白くなって自分の



ことにも興味が出てきたころの結婚でした。機械を扱うことも楽しいのですが、それだけじゃないと気付いたのは入って3年目くらいでした。

会社は何も言わなかったけれど、当時女性は結婚したら退職する風潮がありました。今は産休、育休があるので、結婚しても続けていく人が多くなりましたね。

何かを変えようと思ったら 管理職にならないといけないと 思い始める

女性が多い部署であっても管理者は男性で、女性の管理職はほとんどいませんでした。ある時から管理職にならないと変えられるものも変えられない、変えられることを増やしたいと漠然と思うようになりました。専門性だけでなく、資格がすべてではありませんが、いろんな資格を取らないと周りが認めてくれません。分析を通して人と関わることが楽しくなり、異業種の人と出会う機会が多くなって、いろんな考え方を学ぶようになりました。

■高校生にメッセージを

人と人のつながりを大切に。どんな出会いも無駄なことはないと思います。小さなことでも先々で大きな影響を与えることもあります。大学の時に雑用も含め何かといろいろやらないといけないことがありました。当時同じ学部で筑紫丘の同窓生がいてその人が、「やれる人がやればいい。“なんで、私がしなくちゃいけないの?”と思うより、“できるからやっている”と考えた方が楽しくない?”と言われて「かっこいい」と思ったことがあります。ちょっとしたきっかけで人生の指標を教えてもらうことは、人との出会いがあってからこそであって、人との出会いの積み重ねは無駄にならないと思います。

「紹介してほしい人」を募集します

OKAME STYLE は年2回の発行を予定しています。今後の紙面に取り上げてほしい卒業生をご紹介ください。自薦、他薦どちらでも構いません。「こんな素敵な人がいます」「この人の話が聞きたい」。多数のご推薦をお待ちしています。

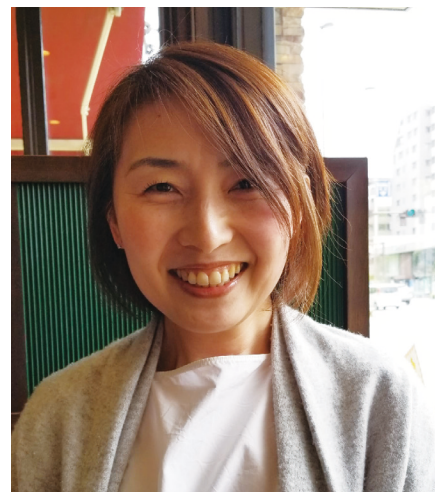
広報委員長 小川訓名 (高36回生)

連絡先: 同窓会事務局 oka.dousoukai@gmail.com

人との出会いが、宝物 楽しくて、地域を元気にする商業施設を ゼロからつくる

株式会社 ethical concept 取締役
商業施設士・一級建築士

40 回生 鶴田(大谷)理子さん



< Profile >

高 40 回生
熊本大学工学部建築学科卒業

1988 年 株式会社間組入社
1997 年 千葉大学工学部工業意匠科研究生
1998 年 株式会社エービーネットワーク
2001 年 株式会社ジオアカマツ
2011 年 株式会社 JEDI 企画部長
2013 年 株式会社 ethical concept 取締役

総合建設会社、食品系商業コンサルタント勤務を経て、現在は商業開発(マーケティング、コンセプトワーク、商業企画)プロジェクトに関わる。国内ではトヨタ自動車販売店、レクサスデザインルール策定など。海外では中国瀋陽ロッテワールド、中国瀋陽中興百貨店、韓国ソウルタイムズスクエア等。

■今のお仕事は？

商業施設開発のコンサルティングです。この地域ならどういうターゲットで、どんなコンセプトで、どんな店をどんな配置やデザインにするかを計画します。今やっているのは、商業施設というより店舗になりますがレクサスのショールームのリニューアルです。

トヨタ自動車は 2005 年にレクサスブランドを立ち上げたときには、ショールームの内装デザインをチームで担当しました。レクサスは“日本”を打ち出したブランドなので、障子の灯りみたいに全体的にふわっとした様な明るさにしたりしました。今回のリニューアルでも、デザインルールづくりに関わりましたが、困っている店舗には設計の相談に乗ったり、家具の選定やディスプレイもお手伝いしています。新しいショールームのイメージにあう調度品などを探して、買い付け、実際に現地に飾るまでをやったりします。

■これまでの歩みを教えてください

大学卒業後、間組に約 5 年。女性がゼネコンに総合職で入れるようになってすぐでした。最初は技術開発部門で、ダムや橋、トンネルの景観設計。もっと人に優しくとか。現場にも行ってスケールの大きい土木の面白さにもはまりました。でもそのうち、なんか違うって思い始めて…。トンネルをいくら高い税金をかけて綺麗にしても、誰かの役に立っているのかな?とか…。土木学会の委員会で関わった方に悩んでいることを相談したら、「千葉大学の工業意匠科」を紹介してもらったんです。面白そう、と思って研究生になりました。

**人から人へ、縁がつながって、
コンセプトづくりから関わる
やりたい仕事にいきついた**

就職してから大学に行く楽しくて。ここでプロダクトデザインとか商業施設設計の授業にすごくはまってしまいました。その後、商業施設の食品部門のコンサルタントの方にお世話になりながら、一級建築士に合格。その方の紹介で、大型の商業開発をしている会社に入ってからの仕事に。所属は設計などのハード部門でしたが、どんな人と呼ん

で、どんな店を入れるか、コンセプトづくりの方に力が入っていきました。ハードとソフトがうまく合えば、もっとお客さんが来て楽しく過ごしてくれるんじゃないかな、と。数年後、気づいたら設計部門の中のコンセプト企画担当みたいな立場になっていました。商業施設は、周りの人たちの暮らしや行動を変えられる。商業で街が元気になる。ゼネコン時代には実感できなかった、自分の仕事の「先」が人に役立っていくことを実感できる場に、やっと辿り着いたように思います。

**商業施設は、周りの人たちの暮らし
や行動を変えられる。街が変わる姿
を想像して、ゼロからつくりあげて
いくところがすごく楽しい**

30 代後半から 7-8 年は、中国や韓国のショッピングセンターや大きな開発のコンセプトづくりから関わりました。ソウルに事務所を作って、7-8 人のスタッフと。中国では現地を 1 週間くらい歩き回り、どのくらいの所得層の人がどのくらいいて、どんな店があるかなど、周辺を調査して計画を立案しました。時間と労力がかかって大変ですが、商業施設ができて街が大きく変わる姿を想像してつくりあげていくのは、すごく楽しい。

■これからやりたいことは？

コンサルとしてではなく、今度は商業施設の運営者としてお客様の近くで関わって、街を変えていきたい。地域の人との関わりを大切にしている商業施設は、20 年たっても元気。小さくても、少し元気がない街にそんな商業施設を作って育てて、運営までできればいいな、と思っています。

**人との出会いを大事にしたい。
目の前の人に喜んでもらえるよう
頑張る。
いい人に恵まれて、それが宝**

仕事ではいろんな人に出会いますが、まずはその人に喜んでもらえるように頑張ろうって。その人と出会ったことで得る苦労や経験もまた、自分が成長できる機会だと思って。今まであまり自分でこうしようって決めなくても、その頃出会った人た

ちのお蔭で、自然に流れに乗ってこられました。50 歳を目前に、高校時代は全く面識のなかった筑紫丘の同級生と結婚しました。これも不思議な友人のつながりからでした。人との出会いとつながり、これからも大事にしたい宝です。

■高校生にメッセージを

高校時代はとりあえず大学の建築学科に入れればいいかな、くらいで具体的に将来のことは考えてなくて遊びすぎて赤点ばかり。運動会でチアやって、文化祭やマネージャーしていたサッカー部でバンドして…。楽しくてあっという間でした。

先のことを考えると「なんか違う、このままでいいのかな」と感じるがありますが、悩みながらも目の前のことをきちんとやっていたら、自然に道はできてくるし、その経験は後々、必ず役に立ってくる。どんな一瞬でも絶対無駄にならないから、今できることを一生懸命やったらいいと思います。運動会でも遊びでも恋愛でも！



人生何が起こるかわからない。 出会った人を信じて 自分ができることを素直に楽しみたい

三菱電機株式会社 住環境研究開発センター
スマートハウス管理担当マネージャー

33回生 坂本(山内)律子さん



< Profile >

高33回生

西南学院大学文学部国際文化学科卒業

1985年 三菱電機販売会社 入社

1997年 携帯電話拡販の為、子会社出向
(3年間)

2013年 三菱電機本社出向

■ 今のお仕事は？

三菱電機 住環境研究開発センター内のショールーム(スマートハウス)で国内、更に海外からの見学者の受入れ調整やアテンドをしています。エアコン、給湯器、IH キッキングヒーター等の家電製品を使った省エネで快適な暮らし、スマートハウスの体感ができるので、工務店や学生、大学関係者、電力会社や通信会社の方も見学に来られます。

男女雇用機会均等法の1年前の就職。大卒女子の採用枠がほとんどなく、短大卒枠で最初から男性と格差があった状態での就職でした

大学を出て三菱電機の販売会社に入社しました。あまり志はありませんでしたが、周りの人に恵まれ徐々に仕事が面白くなり総合職転職試験、昇格試験を順番に受けていきました。女性が営業すること、名刺を持つこと、ましてや会議に出ることもない時代、私が会議に出ると「誰が電話をとるんだ？」と言われました。当時の社長からは「ああ会議だろ？電話は僕が取っとくよ」と言ってもらえましたが「社長に電話を取らせるなんて」と言われることもありました。その後、色々な部署への異動は、どこも女性として初めての部署ばかりでしたが、異動することで自分のことを知ってくれる人、応援してくれる人が徐々に増えて楽しかったです。

新しいことにずっと入り込めるのは特技なのかもしれません

「新しいおもちゃを貰ったみたい楽しく一生懸命仕事するね、特技だね」と上司から言われたこともあります。自分ができるかどうか不安に思っている

周りの人から「できるよ!」と言われたのだから、できるのかも?と、とにかく人を信じて素直にやってきました。

携帯電話、オール電化、太陽光発電、現在のスマートハウス等、新規事業の始まりは海のものとも山のものとも分かりませんが、たまたま私が行く事業は育て「あなたが行く所は会社が行く所」と言われたりします。

■ いろんな同窓会活動も積極的に参加されておられますよね。

最初は西南大学の同窓会活動に参加しました。同窓会は在校生の為、卒業生の為、そして地域に貢献する為、と思っています。西南では女子同窓会の広報誌を作ったり、音楽イベント、当時は珍しかった就活支援等、様々なイベントもやりましたが、丁度筑紫丘の同窓会幹事学年が近づいて、大学から高校の同窓会活動へシフトしました。現在は首都圏同窓会の出納係を担当しています。

趣味のジャズがきっかけで知り合って50歳のときに結婚。 人生何が起こるかわからない!

結婚することになり、相手が横浜で母と同居していたため、転勤を希望したところ「前例がない」と言いながらも会社も探してくれました。挙式だけが決まり転勤先が決まらない状態でしたが、ぎりぎりに「君にぴったりの仕事があるよ」と言われたのが今の職場で三菱電機本社への出向という形になりました。結婚後も仕事を続けられたのは、今まで様々な事業を経験したこと、それがほとんど前例のない仕事ばかり、女性初の仕事ばかりだったからでしょうか。今まで男性がやってきた仕事でも女性にもやっていけると思います。

父も同窓生(高校3回生)。
中学の教員で、我が家には筑紫丘に入った卒業生がいつも遊びに来ていたので、高校は筑紫丘しかない、と
思っていました

代々教員の家でしたので教育大を受けましたが落ちて西南学院大学文学部国際文化学科に入りました。「教員にならないのなら教員免許は取るな」「免許だけ持って教育の現場を知らんなら、子育てする時に子供の先生を信頼できんやろう」と父から言われて教員免許は取りませんでした。

■ 高校生へのメッセージ

私は文学部出身ですが今は技術部門の一端を担っていますし、同級生の中には文学部を出て医学部に入りなおした人もいます。自分に限界を作らず、「私にはこれしかできない」と決めつけず、諦めず。世の中はどんどん変わっていくので、今出来ることを素直に一生懸命やっていたら新たな展開も訪れます。私はいい先輩に恵まれ育ってきましたから、私も後輩の皆さんのお手伝いできればと思っています。出会いを大事に、同窓生の先輩をどんどん頼ってください!

【編集後記】

- ・今回の4号発行に際してテーマは決めずにお話をお聞きしました。ところが、共通するお話が聞けたことで嬉しく思いました。後付けテーマですが、今回は「出会い」です。素敵な出会いをお聞きできました。次号もお楽しみに!(小川)
- ・結婚や出産しても「やりたい仕事を続けること」は今回の皆さんにとってごく自然で当たり前のこと、というのが印象的でした。仕事すること、家庭を持つこと、どちらも素敵なことです。(太田)

【制作】丘女会広報部：小川訓名(高36)、太田由美子(高32)、米澤一江(高49) デザイン：藤田明子(高39)

※制作ボランティアスタッフを募集しています。興味のある方は広報スタッフもしくは事務局までご連絡ください。